

SS9-1 デジタルサイトロジーの現状と展望

Digital cytology, current status and prospects

森一郎

国際医療福祉大学 医学部 病理・病理診断学

Ichiro Mori

Department of Anatomic Pathology, School of Medicine, International University of Health and Welfare

=抄録=

近年のデジタルパソロジーの進展から細胞診は取り残されている。立体配列する細胞からなる標本のスキャンに時間がかかることと、WSI 化細胞診標本のスクリーニングに展望が持てないなどのために、デジタルサイトロジーは保留状態にある。

最近になって、Z-Stack についていくつか新しい試みが出てきており、細胞診標本のデジタル化が手の届くところまで来ている。WSI 標本のスクリーニングについて本気で考える必要が出てきた。

簡単なのは AI にスクリーニングを任せることと思われる。世界的には細胞検査士制度の無い国も多く、WSI と AI を組み合わせたスクリーニングシステムは世界で歓迎されると思われる。このシステムが日本に逆輸入された場合、細胞検査士の仕事のかなりの部分を奪ってしまう可能性が高い。優秀な細胞検査士を多数抱える日本の現状を生かすためには、スクリーニングに使いやすい WSI ビューアの作成や、日本の優秀な細胞検査士を活用した優秀な AI システムの作成などが必要と考える。